

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 足原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

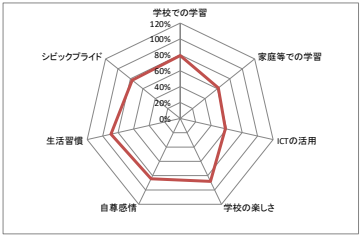
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「書くこと」の領域の問題の正答率は、全国平均を若干下回っている程度である。「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか問う問題。	下回っている
	努力が必要な問題	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうか問う問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っている。特に「データの活用」の領域の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるか問う問題。	下回っている
	努力が必要な問題	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるか問う問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
【成果】 「友達関係に満足していますか」との問いに対して、肯定的な回答をした児童が全国の割合と同程度であった。 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きますか」との問いに対して、肯定的な回答をした児童が全国の割合と同程度であった。 【課題】 - 授業中に発表する際、自分の考えがうまく伝わるように語の組立てなどを工夫して発表することを苦手としている児童が多い。今後は、プログラミング的思考など論理的に語をする場の確保に努め、学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」と思える授業にすることが必要である。 - 普段（月曜日から金曜日）および学校が休みの日の家庭学習の時間が、全国の割合よりも低い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・ICTを活用した授業改善のための職員研修を実施した。ICTを活用した授業が多く実施されるようになった。同時に、児童もICTを活用し、自分の考えをまとめ、説明する機会が多くなった。今後も教師の授業力向上を図る。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・日々の学級指導の中で、家庭での学習習慣について、継続的に指導していく。また、学級・学年通信や学級懇談会等を通して、本校の取組や課題を保護者に周知するとともに、啓発を行う。